

2004年(平成16年)

10月8日
(金曜日)

土曜・日曜・祝日休刊

日経産業新聞

市場トレンド

私はこう読む

河口真理子

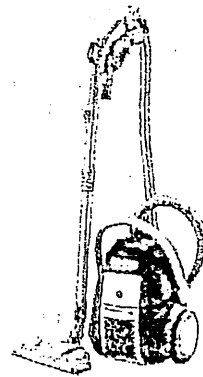
掃除機を買うとき何を基準に選んでいるだろうか。空気を吸い込む力(吸い込み仕事率=W)が大きいほど高性能と思っているのではないか。実際、吸い込み仕事率が500W以上で、遠心分離でゴミを分けさらにHEPAフィルターで微細なチリを取るというサイクロンタイプの高級掃除機が人気だ。しかしこれは日本の特殊事情。

じゅうたんの上を土足で歩く生活習慣がある欧州の状況は全く異

なる。7万円前後するスウェーデン・エレクトロラックス社の掃除機=写真=やドイツ・ミーレ社のそれなど欧州の高級掃除機の吸い込み仕事率は200W前後と低い。実際に、掃除機のノズルに手をかざしても強烈に吸い付く感じはない。しかし日本製掃除機で掃除した後のじゅうたんを欧州製のもので掃除してみると、驚くほど細かいチリやホコリがとれる。実は欧州では、掃

ひと味違う欧州製掃除機

微細なチリ 排気で逃さず



除機の性能は吸い込み仕事率ではなく、ダストピックアップ率で測られているのだ。実際にどれだけゴミやホコリを吸引するか、そして吸引したホコリを排気として出さないという指標だ。

高級機種でも日本製のダストピックアップ率は40-60%前後だが、欧州製は70%前後である。ノズルをピッタリと床に密着させる構造にしているので、ノズルと床の間に真空状態ができ、確実にゴミやチリを吸い上げることができる。力を入れてこすらずに、床をなげるようにかけても確実にゴミを吸い上げる。排気はHEPAフィ

ルターが微細なチリを確実に補足するので、排気は空気清浄機で清浄した空気並みにきれい。あるサイクロン掃除機の排気からは1立方メートル中10万個以上のホコリが測定されたが、エレクトロラックス社の場合は実に数十個程度。掃除と同時に空気清浄機を回しているのと同じだ。狭い日本家屋では若干取り回しにくいのが、じゅうたんや畳に入り込んだダニやホコリが原因のアレルギー、掃除機ではとれないペットの毛や臭いに悩まされている消費者には大歓迎されている。

また、本体が二重構造なので、極めて静か。欧州製に買い替えて、近所から「あの家は掃除をしなくなった」と陰口をたたかれた人もいるほど。いずれも販売ルートは生協や通販などが中心だ。

(大和総研主任研究員)